

卒業生調査

この調査は開学 20 周年を記念して卒業生約 150 名にアンケートを実施したものです。
アンケートの回答結果から、卒業後に苦労したこと、またどのように解決し乗り越えたか、在学生へのメッセージを一部抜粋し、掲載しています。

・実施期間 2021 年 8 月～2022 年 1 月

・回答者数

製造技能工芸学科／製造学科／総合機械学科 ※以下、製造学科	24
建設技能工芸学科／建設学科 ※以下、建設学科	53
ものづくり学研究科	10

・回答者内訳

	製造学科	建設学科	合計
2004 年度卒	2	3	5
2005 年度卒	1	6	7
2006 年度卒	3	5	8
2007 年度卒	1	2	3
2008 年度卒	1	7	8
2009 年度卒	0	4	4
2010 年度卒	2	3	5
2011 年度卒	2	1	3
2012 年度卒	2	2	4
2013 年度卒	3	3	6
2014 年度卒	2	3	5
2015 年度卒	1	2	3
2016 年度卒	1	1	2
2017 年度卒	2	7	9
2018 年度卒	2	7	9
2019 年度卒	1	2	3
2020 年度卒	2	1	3
合計	28	59	87

卒業後に苦労したことを教えてください。また、どのように解決し、乗り越えましたか。

- 加工などの知識技術の乏しさを痛感した。
- 自分のイメージと実際の仕事とのギャップに苦労した。
- 現場で働いていると必ず多数の人とのコミュニケーションを取らなくては工事が進まない。
- 本学で培った知識を仕事に活かすことが難しかった。専門知識を披露する機会が多々あったが、知識をそのままお客様にお話ししても専門用語が多かったりと理解して頂けないことがよくあった。
- 世界の時流がものすごい速さで変化していること。解決方法は海外の人と接点を持つ、自分が海外に行く。そこで足りないものが見えてくる。
- 地域（方言及び環境）に馴染むのに苦労した。
- 1 つ 1 つの作業に大きなお金がかかるため、お金をかけないやり方を考えることが苦労した。
自分だけではわからないことが多いため、関係者と打合せを重ねて乗り越えている。
- 店舗工事は工期が短いことから、短期間で多くを仕上げる必要がある。精度を追求することと同時に場合によってはある程度妥協することも重要になる。
- 「人に何かを依頼すること」が苦手で、過剰に業務タスクを抱え込んでしまった。上司や先輩など身近な人に相談することから始め、時には仕事を振り分けることで、自分の業務ペースをつかんでいった。
- 意匠面だけでなく、電気設備、機械設備の知識がかなり必要だと感じた。
- モチベーションの上がらない仕事や不本意な状況であっても諦めず、その時々でその場所で自分のベストを尽くし、同時に理想を追求してそれを外にも訴え続けてきた。不撓不屈の精神と行動が重要だったと思う。
- 英語が昇進条件になっており、既定の半分以下の点数しか取れていなかった。毎日 2 時間勉強し、最後は個人レッスンに通い達成した。
- 入社 2〜3 年の頃に、三重県の山奥で小学校の建設に関わった際、周囲に知り合いがいなく四六時中仕事をしていた。ただし仕事を覚えるといった面では、仕事だけに集中できたのでこの時期が一番成長したと思う。
- 卒業後、ビジネスマナーに苦労した。今でも電話応対や敬語に関して苦戦している。
研修で何回も練習や講習を受けたが、実際にやってみないと見につかないものだと感じている。
- 米国駐在を任せられた際、当初語学の習得に苦労したが、現地スタッフと公私にわたって積極的にコミュニケーションをとることで業務や生活に支障ないレベルになることが出来た。
- 現場毎に各地を転々とする苦労および専門業者としての各工種についての知識を蓄えるにあたり苦労しているが、意識を変え乗り越えている。
- 学生時代は一つの課題に対して時間をかけて完成度をあげていったが、社会人は早さが重視されるためそのギャップに対応することに苦労した。解決策は常に一つ先を考えて業務をすること。次にやることを予測して準備しておけば、作業効率上がる。
- やりたいこと、できること、与えられた仕事とのギャップ。ものづくりにはルールブックがないから、就業前や昼休みに先輩がどうやって作っているのかを見たり、担当ではない他の図面を見て、いろいろなパターンをインプットしていき引き出しを増やした。
- 入社した際にコロナが流行り研修で現場にも行けず、一人で勉強していた。参考書を持ちながら資材倉庫で実際の材料を見て学んだ。
- 大学で学んだ分野と異なる業務を担当すること。上司や先輩に相談しながら必要な知識や技術を習得し、実践を繰り返すことで課題を乗り越えた。
- 目の前で起きていることに向き合い、課題設定を行うことの大切さを学んだ。
- 苦労したのはスケジュール管理。建築はとて多くの人が携わってできており、技術的事項等を総括するため、スケジュール管理は重要なファクターになる。自分の主張を丁寧に説明することも重要だが、相手の主張もしっかりと聞き入れコミュニケーションを常に図ることで、より円滑に正確なスケジュールを組むことができるようになった。
- 新製品の開発において、規制のクリアと品質の両立を果たすことに苦労した。勘や憶測も使いながら出来る限りデータの数値化を行い記録し、多くのトライアンドエラーを繰り返すことで解決できた。
- 製造する銅合金の種類が多く、それぞれ特性や管理方法が違うため、それらを覚えるためにメモを細目にとった。
- 人とのコミュニケーション。話をする時は相手の目を見て、ハキハキと端的に言う。
- 在学中の講義内容よりも、よりコアな機械の操作、扱い等に苦労した。先輩や上司の教えを良く聴きメモを取った。

在学生へのメッセージ

- 何事も段取り 8 割です。この大学 4 年間でなにを得られるかで今後に影響してくると思いますので、日々自己研鑽に努めつつ、大学生活を楽しんで下さい。
- 会社が新入社員に求めているニーズは何か、よく考えて勉学に励んで下さい。
- 体を動かして学べる大学です。当たって砕けるも大事ですが、結果を想定してやってみることも大事です。様々な考えの人に出会って、世界を広げてください。
- 楽しくやり甲斐のある人生を送ってください。
- 面白いと感じた授業があったらトコトンがんばってください。そういうのが今も何かしらで役に立っている自覚があります。楽しんで。
- 必修科目だけ！ とりあえず卒業できるように上手く単位取ればいいや！と私自身も在籍時は思っていましたが、それを経て社会人になると困る事が色々な場面出てきます。
在校生の皆さんには、今後の自分を見つめどんな職業に就くのかを改めて考え資格・技術等々を自分の物にできるのは「ものづくり大学」が 1 番だ！と周りの話を聞いても、私自身でもそう思います。
- 常に今やっていることの意味や将来的なイメージを持って取り組んでください！
社会を生き抜くキーワードは 3 つ。コミュニケーション、我慢、柔軟性。
- 建設業に限らず、大学で学んだことと実際の仕事には少なからずギャップがあります。幸い、ものづくり大学では多くの現場で通用する基礎知識が学べます。その知識と、それを教えてくれる先生方との繋がりを生かし、そのギャップを乗り越えられるかはあなた次第です。また、建設業では業界内での横のつながりはとても重要です。同窓生との繋がりをぜひ大事にしてください。
- ものづくり大学で学べることは建設業界で働く上では直接ためになることばかりです。幅広く学べる大学生のうちは何事にも興味関心をもって、たくさんの事を吸収する気持ちで大学生活を過ごしてほしいと思います。
- ものづくり大学には、社会経験豊富な先生や講師の方々が多く在籍しています。また、大学職員の中には先輩にあたる卒業生もたくさん居ます。生徒同士のコミュニケーションは勿論の事ですが、先生や講師の方々、大学職員の方達とのコミュニケーションが、将来とても意味を成す時が来ます。是非負わず諸先輩方と積極的に関わりを持って下さい。
- 自分に自信を持って何事もやってみて下さい。相手の事を考えて行動して下さい。自分がされて嬉しい事は他の人もきっと嬉しいです。このことは何をやっても通じると思います。
- 今のうちから基礎の部分において授業で習うこと以外も練習しておくとか就職後の仕事で対応しやすいです。
(設計や機械加工の面で)
- ぜひ、様々な価値観の人と交流してほしい。
- 社会に出ると、自分の行いに自身ではなく会社としての責任を持たなければなりません。1 人で大きな海の中を浮き輪もなしに投げ出された様な不安もたくさんあります。でも、分からないなりに、もがきながらもその中を泳ぎ出すことで、様々な経験を得られて、いつの間にか 1 人で泳げる様になるのかなと思います。
また、建物をつくる過程では、多くの人々の関わりがあって成り立ちます。自分 1 人ではなく周りの方々に助けていただくこともたくさんあります。その中で得た経験や、自分が思い描くことを実現できた時のよろこびは一生ものの財産になると思います。
- IT スキルは学生のうちに身に付けておくといいと思います。エクセルの関数だけでなく、出来ると重宝されるのでおすすめです。
- 自分のやりたいことを見つけて、学生にうちに出来るだけやっておいた方が、将来の役に立ちます。好奇心や、興味のあることにのめり込む姿勢は社会人になっても絶対必要になるので、今から取り組んだ方がいいと思います。
- 信念をもって常に前進し、自らの道を開いてください。
- 大学ではインプット(講義で学ぶ)することに学生の皆さんは「学費」という形でお金を払っていますが、社会に出た途端に、アウトプットし成果を上げることで会社(顧客)から「給料」という形でお金をもらう側になります。
その意識で学生の内からインプット→整理→アウトプットの変換癖をつけておくと、社会に出たとき即戦力になるはずですよ。最近は学生限定のコンペティションやイベントが多くありますので、是非自主的に参加して成果を上げてみて下さい。
- 趣味でも勉学でもなんでもいいので何かしら目標を立てて取り組むようにすると今後役に立つと思います。

- 4年間の大学生活で探究心を持つと、社会に出た時、役に立ちます。授業中、なんで？と疑問に思ってください。そのなんで？が多ければ多いほど、根拠を学び、この先の仕事もプライベートもきっと面白くなります！
- けど、もし心が疲れてしまったら…ちゃんと休む！誰でも弱い部分があるから、弱い自分を受け入れることが大切です。このようなご時世ですが、みなさんが笑顔で大学生活を謳歌できるよう願っています。
- 卒業してから「この授業ちゃんと聞けばよかった」とか「昔〇〇先生が授業で言ってたなあ」と思うことが多いです。木造・RC・鉄骨・設計など、意外と専門外の知識が必要になってくる場面も多いので、いろいろな授業を聞いてみるのも面白いかもしれません。将来就きたい仕事以外のことも広く学べるのがものづくり大学の魅力だと思いますので、ぜひ幅広くチャレンジしてください。
- 興味があること、やりたいと思えることがあれば、まずは行動してみることを大事にして欲しいです。自分の可能性を限定せず、飛び込んでみると新しい世界が見えてくると思います。
- ものづくり大学で学ぶこと、経験することは無駄なことではないと私は日々感じています。現在、営業職となり分野は変わりましたが、仕事という上では一つの目的に向かって達成するために努力することはかわりません。大学生活は一生ものです。研究活動・サークル活動の多くの出会いを全力で楽しんでください。それが次のステージで必ず糧になります。
- 授業だけではなく、プロジェクトなどの課外活動をして技術を極めるのもいいと思います。
- どんな分野でも、基礎をちゃんと学んでると応用が効きます。意外な時に、学んだ知識は役に立つので、広く浅く知識を身につけることが大事です。
- 大学生活4年間は、自分自身のスキルアップに時間を費やせる貴重な時間です。そして、ものづくり大学には、技能を伝授してくれる指導陣に加え、他大学にない設備が整っています。卒業後、ものづくり大学での4年間でしっかりと役に立ちます。頑張ってください。
- 学生と社会人は全く違い、社会から守られる立場から社会を守る立場に変わる為、自身の行動に責任を持って社会人になってほしい
- 取れる資格はどんどん取得した方が後々役に立つので取ったほうがいいです。
- ものづくり大学は学内設備が優秀です。他の大学から見てもダントツです。これを使わないのはもったいない！とにかく学内の設備を使い倒すこと。幅広く使うことと、何か特定の設備に関しては特化できているのが理想。使う理由がないと中々やらないままになると思うので、サークルや課外活動などと関連づけると使う理由や使ってみたいという意欲が出てくると思う。
- 就活は、その場の流れや職場の所在地だけで選ばず、良く調べ企業に見学などに出向いたりし空気感やそこで働く人たちを知り、しっかりと検討して就職したい企業を選んで下さい。そのためにもインターンシップの取り組みは大切です。
- ものづくり大学は名前の通り「ものをつくる大学」とイメージするかもしれませんが。実際に、授業や学生プロジェクトを通して多くの“もの”をつくります。しかし自分という技術者・技能者をつくる大学でもあると、私は思います。ものづくりは自分から動かなければものが出来ないことから、この大学でも自分が興味や関心のある分野を見つけて、挑戦し続ける事が大切です。ものをつくる事を通して唯一無二の自分自身をつくり上げ、磨き続けてくれると先輩としてとても嬉しいです。